

## 兵庫芸術文化センターPAC オーケストラバックステージツアー報告 (2021.9.30)

### 1. はじめに

兵庫芸術文化センターなるほど「PAC オーケストラ」編バックステージツアーに行ってきました。

### 2. 兵庫芸術文化センターオーケストラバックステージツアーの経過



#### [バックステージツアー資料](#)

これまでに大ホールのバックステージツアーは、[KOBELCO 大ホールバックステージツアー報告\(2019.5.28\)](#)で、小ホールのバックステージツアーは、[兵庫芸術文化センター小ホールバックステージツアー報告\(2020.12.8\)](#)で報告済です。

今回は、オーケストラに焦点をあてたバックステージツアーです。

最初に会議室に集まり、資料の配布と今回の企画の説明があって、すぐにツアーに入りました。配布資料は次のものです。

楽団エリアの図面

オケの配置図例

チャイコフスキー交響曲 6 番 4 楽章冒頭の楽譜

いったん建物外に出て楽団員の入り口から入り、大小の練習室、芸術監督室、楽団事務室、倉庫、楽団会議室、食堂などの見学と説明がありました。

ピアノ倉庫には、スタンウェイ 2 台、ベーゼンドルファー 1 台、ヤマハ 1 台があり、別の小ホール用の倉庫には、スタンウェイ 1 台とチェンバロ 1 台があるそうです。

楽器は楽団員の原則個人持ちですが、大型の打楽器やコントラバスはホールで準備しているようで、この他演奏者の持ち込みもあるそうです。

ここから、運搬用の大型エレベーターで 5 階のリハーサル室に移り、専属の楽団の説明がありました。

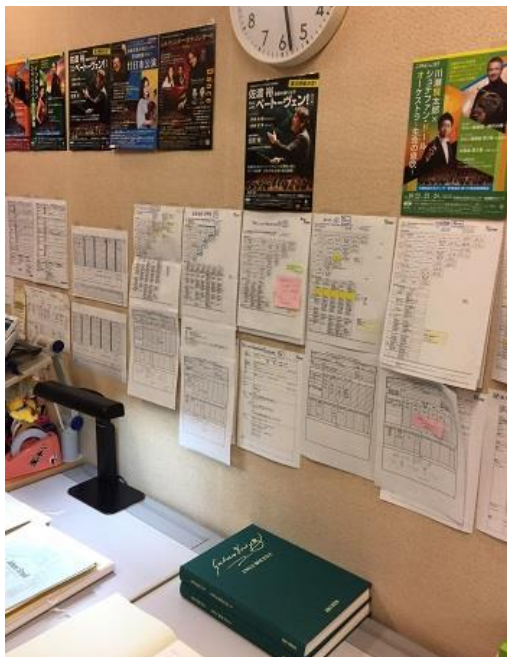
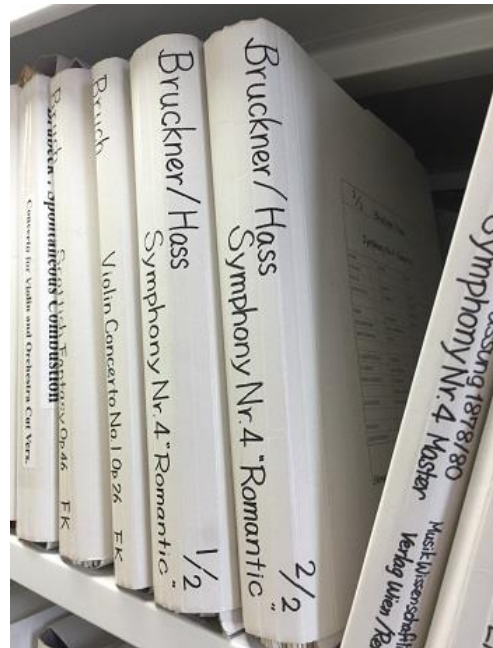


現在専属の楽団は、定員 48 名のところコアメンバーとして 40 名が所属し、国内から 23 名、国外から 17 名の団員がいます。オーディションは、本拠地の他、東京、ニューヨーク、ミュンヘンでも行っているそうです。このコアメンバーは 3 年の期限で、各地のオーケストラに巣立ちしていくので、オーケストラメンバーの養成機関として機能しています。

次に楽譜の管理を行うライブラリー室に移動し、ライブラリーの保管状態、管理室の様子、音楽監督が実際に使用している楽譜のサンプルなどを見学できました。

創立以来、15 年間でオーケストラ用 2500 種、その他アンサンブル用など 1500 種、音楽監督からの預かり 2300 種があるそうです。公演が決まると、指定された楽譜のチェックに入るそうですが、これが結構大変で、間違いを正すなどの作業に手間取るそうです。

リハーサル室に戻り、わくわくオーケストラ教室のライブ演奏の終わりの中継をモニターで視聴しました。当日はコロナの関係で近隣の 1 校 60 名の参加でしたが、通常は、年間約 380 校、4 万 5000 人の生徒の参加があり、生の音楽教育の場を提供しているとのことでした。その後、参加者との Q&A があり、リハーサルのやり方などの質問がでました。



最後にライブ演奏の終わった、大ホールの客席に移動し、オーケストラの配置の通常配置と対向配置などの説明がありました。さらに、チャイコフスキー交響曲 6 番 4 楽章冒頭の楽譜のオーケストラと第一ヴァイオリンと第二ヴァイオリンのパートが別々にピアノで鳴らされるところをスピーカーで聴き、次いで同時に鳴らされると、人間は高い音階の方に注意が行くので、ちゃんとしたメロディになっているように聴こえるということでした。

この後、参加者との質疑応答がありました。



最後に会議室に戻ってから、楽譜の電子化や一部の演奏家が行っているタブレットの使用など、ペーパーレス化についての方向性をライブラリー担当者にお聞きしたところ、現在のところ楽譜は紙主体であるが、ペーパーレス化の方向は課題であるとのことでした。

### 3. まとめ

今回、オーケストラの構成や企画や各種の準備、リハーサルからの演奏までの手順、特に裏方のスタッフの作業など、有益な知識を得ることができました。

以上